

新しいことにも挑戦しいろいろな活動を楽しむ子

～楽しさを手がかりに指導した生活単元学習の実践～

井崎典子

はじめに

〇子は、今年度小学校の障害児学級より本校中学部へ入学してきた。心臓病の手術歴があり、活動が制限されていたこともあってか、未経験なことが多く、言葉が豊富な割に行動が伴わないという実態があった。また身辺自立の面での問題や体力不足も目立った。このような〇子が、中学部という新たな集団の中で、楽しみながら経験を助け少しずつ体力や自信をつけつつある姿を、生活単元学習での取り組みを中心に述べてみたい。

1 プロフィール

(1) 生育歴

- ・昭和58年11月16日生 13歳2か月 中学部1年 女子
- ・ウィリアムス症候群（心内膜床欠損症・大動脈弁上狭窄） 2歳時完治手術
- ・両親と姉と本人の4人家族（両親は常に子どもの体調を気遣っている。）

(2) 諸検査による実態

- ・知能検査 IQ42（言語性47 動作性47）WISC-R・・・平成8年7月
- ・S-M社会生活能力検査（表-14）

他の領域に比べ、移動の領域が低く身辺自立・作業領域もやや低い。

表-14 S-M社会生活能力検査

身辺自立	移動	作業	意志交換	集団参加	自己統制
5-11	4-8	5-10	6-2	6-0	6-4

- ・自分づくりの段階

自制心の芽生えの段階にあり、今後少しずつ自制心の形成をねらっていきたい。

(3) 楽しんでいる姿

語彙が豊富で大人との会話が楽しめる。司会役を希望したり進んで意見を発表したりして、話し合い活動には積極的に取り組むが、内容を理解していないことや、自分の意見に固執して友だちと言ひ合いになることがある。音楽・調理・描画活動が好きで楽しみにしているが、体育や作業学習等で身体を使うことには不安を示す。初めてのことには自信がなく消極的だが、前向きな励ましの言葉には敏感に反応し、意欲的に活動できる。

2 取り組みの構想

(1) 指導仮説

以上の実態をもとに、〇子が未経験のことにも意欲的に取り組み自信を持って活動できる場面を増やしていけるように、次のような仮説を設定した。

個人目標 新しいことにも挑戦し、いろいろな活動を楽しむ子

つけたい力 体力 基本的な生活習慣の確立 空間認知力 協調性 調整力

題材と支援

- ・課題学習での自転車乗り—共感しつつ励ます。友だちとの関わりを持たせる。
- ・日常生活指導での排泄・生理の指導—繰り返し場をとらえて具体的に指導する。
- ・生活単元学習での調理、買い物学習—食べるという先の楽しみを支えに、基礎的な調理や買い物の技能を高める。
- ・生活単元学習での大山登山—登山練習を含む事前学習を重視し、自信を持たせる。励まし、頑張りを認めて意欲につなげる。

新聞・テレビや大人の会話から得た知識を多く持ち、発語の力もある〇子だが、運動経験が特に少ない。また、着替え等の身辺処理にも援助を要する。そこで、鍛えることを前面に出さず、楽しんで取り組める運動を毎日繰り返すことで体力をつけるとともに、具体的な生活場面での身辺処理能力の向上をねらっていききたい。その結果、安定した学校生活を送れ、その中で新しいことに挑戦し、経験を広げ、自信と喜びを持つことができるようになると思った。

(2) 指導方針

- ①自分でできるようになるまではやり方を丁寧に教え、その後繰り返すことで定着を図る。
- ②心拍数・顔色等体調に配慮しながら、毎日の体力づくりを継続し、身体を動かす楽しさを体感させる。そのためには意欲を喚起するような題材を工夫する。
- ③場をとらえては中学生らしい行動やマナーを指導し、中学生としての自覚を持たせる。

3 指導の実際

(1) 体力づくりを主にした課題学習

〇子の課題学習のプログラムとして、スクーターボード・自転車こぎ・ジョギングの運動と国語・算数のプリント学習を組んだ。特に〇子にとって体力づくりが優先課題との考えから、主治医と相談し、心臓に過重な負担がかからないように配慮しつつ運動に重点を置いた。4月当初は自転車こぎだけに意欲をみせたので、スクーターボードで2周したら自転車に、3周したら自転車にというように、先を楽しみにしながら苦手なものにも取り組んでいけるようにした。ジョギングは心拍数120程度を目安に一緒に走り、励ましの言葉をかけながら進めた。始めのうちは涙ぐむこともあったが、繰り返す中で徐々に自主性が見られ出した。特に自転車こぎは休憩時間にもするようになり、室内の固定自転車から外の補



自転車の練習

助輪付き自転車、補助輪なしへの挑戦へとつながっていった。

(2) 大山宿泊学習 (10月17日～19日)

「遠くまで行って、長く泊まるんだよ」と1学期から心待ちにしていた行事であるが、楽しみにしていたのは弁当・宿泊先での食事・入浴・買い物・私服で、5月の校内宿泊学習からの大きな拡がりは見られなかった。また登山に対する不安が大きく、当日欠席することさえ懸念されるほどだった。ところが、事前学習の久松山登山で頂上からの広々とした景色に歓声を上げたり、友だちから大きく遅れることなく下山できたことに非常に自信を持ち、少しずつ大山登山そのものへの意欲が持てるようになってきた。一方班活動では、「赤とんぼ班のために食事係をがんばる」等の前向きな発言が多く聞かれたが、持ち物整理等の自分の仕事が遅れがちで、結果的に班の友だちに迷惑をかけてしまうこともあった。

題 材	支 援	取 り 組 む の 様 子
鳥取県の 地図づく り	<ul style="list-style-type: none"> 資料を豊富に準備する 友達との関わりを持たせる。 	Y男と一緒に主な河川や山を地図に描いた。好きなピンク色にこだわって文字も色塗りも一色でしようとし、M男に止められた。
大山登山	<ul style="list-style-type: none"> 事前練習をする 服装や持ち物の確認をする。 ゆとりのある時間設定をする。 	<p>教師が一对一で付き添い、体調を見ながら登山をした。六合目までを目標としたが、八合目まで登ることができた。下山の時は足元が不安定でバランスをとりづらく、挫けそうな場面もあったが、場に応じて指導者が手を貸したり、横向きの歩き方を教えたりして時間内に下山できた。</p> <p>目標を頂上にしなかったことで、挫折感を味わうことなく充実感を持って大山登山に取り組むことができた。</p>



八合目でピース

4 考察と今後の課題

昨年までよりは欠席日数が少なくなり、春に比べて学習へ取り組む態度にも落ちつきや自信が感じられるようにはなった。しかし、まだまだ担任の励ましや声掛けで意欲を持続できる実態である。

大山登山や課題学習の取り組みも、達成できたことへの心からの喜びより、ほめられてうれしいという気持ちの方が強い。今後も基本的な身体づくりを続けながら、日々の活動に具体的な目標を設定し、O子が見通しと意欲を持って学校生活を送っていけるように支援をしていきたい。